

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4570200917		
法人名	医療法人誠心会		
事業所名	グループホーム小松原	ユニット名	1号館
所在地	宮崎県都城市小松原町1161-3		
自己評価作成日	平成28年7月15日	評価結果市町村受理日	平成28年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.in/45/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kanistrue&amp;jiyosyoCd=4570200917-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.in/45/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kanistrue&amp;jiyosyoCd=4570200917-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年8月4日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

職員が利用者様の好みを踏まえて熟考した献立を、同じ時間に、同じテーブルを囲み、同じ物を食す事でさりげない介助を行う事が出来ている。また、一体感が生まれ、顔を見ながら、談笑しながら、アットホームな雰囲気の中で過ごして頂いていると思う。手作りの食事は、思いのこもった温かみのある味で、皆様毎食「おいしい！」と喜んで下さり、平均年齢が95歳とご高齢にも関わらず、完食率が高い。利用者様が過ごし易いよう、傾聴すべき時、静かに一歩引いた所から見守るべき時等、個々の身体、心理状態に合わせた介助が行えるよう、日々観察、職員同士の情報共有を行っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者と職員が家族として寄り添って「心から笑える日常」を熟考しながら、自尊心や残された力を見だし、自由な生活を安らぎと満足のある暮らしにつなげようと努めているホームである。また、日々の暮らしの中で、食事は栄養補給だけではなく、喜びや満足、季節やならわしなどさまざまな感性を呼び起こし、刺激をもたらして利用者を心豊かにしてくれる大切なこととして、おいしく楽しい食事を支援している。さらに、ケアの充実を図るために、内外の研修で得た知識を現場で伝達し、症例について話し合い、最良のケアを利用者に提供できるように努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が熟考した理念を掲げており、日々見返す事が出来るよう、ホールや事務所内に掲示している。		全職員で理念を共有し、そこで出た意見を具現化している。車椅子の利用者が多くなり、外出する機会が少ないとの意見に対し、散歩や軽喫茶、レクリエーション活動を外庭で行うなど、支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は取れていないが、行事等への参加を行い、ホームでの催事には会議等でお誘いをしている。		利用者と一緒に六月灯に出掛け、金魚すくいや灯籠奉納に参加している。月に一回のボランティアとの交流や家族、知人の来訪など、ゆっくり過ごす空間やおもてなしを支援している。	ホームの行事等に地域住民の参加を得たり、また、普段の暮らしの中で、隣近所の人が気軽に立ち寄れるような関係を構築することを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会議等で地域の方々に参加して頂ける際には、事業所としての経験を生かした議題設定も考慮し、情報を発信している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回参加して頂いた方々より、積極的にご意見を頂けており、そこから事業所として発展させて取り組む事がある。		会議では資料を配布し、ホームの活動状況の報告や意見交換等を行っている。会議で出された意見、要望を全職員で共有して、ケアを見直したり、職場環境を整えるなど、サービスの向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問や対応法等、随時担当の方へ連絡を取り、積極的なご指導を頂いている。		市の担当者とは、ホームの運営や課題についての相談や指導を受けるなどの協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯以外は玄関も常に開錠しており、拘束をしないケアに取り組めるよう、マニュアルを作成し、周知している。		内外の研修に参加し、身体拘束の弊害について学び、理解を深め、身体拘束のないケアに全職員で取り組んでいる。見守りを重視した取組で、日中は玄関や居室の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルの設置や研修にも参加し、定期的に虐待防止について見つめ直す機会が設けられている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は持ておらず、今後機会を持ちたいと考えている。必要性が出てきた場合は、各関係者と密に相談し、活用できるよう支援していく。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	都度文書にて周知しているが、不明瞭な場合は、来苑時に皆様直接職員へ訪ねて来て下さり、説明する事で、理解、納得をして下さっている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見投書箱を設置してはいるが、うまく活用できておらず、皆様ご意見、ご要望は直接職員へ投げ掛けて下さっている。職員はそれに対する策を熟考し、実践している。		運営推進会議や家族の来訪時に声掛けを行い、話し合える場を作り、意見や要望を表す機会を設けている。定期的の手紙等や電話で利用者の生活状況を伝え、意見や要望が出やすいように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議への参加にて、顔を突き合わせて話す機会があり、普段からも職員が気軽に話し掛けられるよう、世間話等で和やかな雰囲気を作り出して下さっている。		代表者・管理者は、職員会議や引継ぎ時等で職員の意見や提案を和やかに聞く機会を設け、柔軟に対応している。職員のアイデアで、利用者の外出の機会をより取り入れたいと、外庭で軽喫茶等を開いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力、実績等も把握されており、職員に任せて良い事、自身が介入した方が良い事を状況によって見極め、的確にサポートして下さっている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県外での研修を推奨して下さる等、職員のスキルアップの為に尽力されている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流がなかなか持てずにおり、今後機会を持っていきたい。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いを第一に考え、適度な距離感を見極めながら傾聴を主体として、まずは、ご本人に職員は話し易い、聞いてくれる存在として認識してもらえるように尽力している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から聞かれる意見要望に対して、一つひとつ真摯に受け止め、できる対策を提案したり、事業所としての経験談を語ったりしながら、お互いに助け合える存在になれるよう尽力している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所と併せ、ほかのサービス利用を要する場合や入所以外のサービスを必要としている場合は、各方面の担当者と相談し、一番良い方向性を思案する方針である。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の笑顔を引き出す事を常に考えているが、反対に職員が笑顔にさせてもらう事が多い。また、人生の先輩として生きる術や考え方等、教えてもらう事が多いと感じている。それにより、自然と敬う心が持てている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも実際の状態を報告しつつ、ご本人の昔ながらの口癖や性格、馴染みの唄を歌って下さる等、ご家族にご本人の変わらない一面を感じてもらえるよう、色々な話をしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人等への連絡や手紙、写真等を送れるよう支援している。	地域の祭りでのなじみの人との出会いや家族・知人の来訪、なじみの美容室の出張カットなどを通して、利用者のこれまでの生活の継続的な支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介しないとうまく談笑が出来ずにいる事が多いが、ご本人が望んでいるかをしっかり見極めながら仲介し、穏やかなコミュニケーションを取れるよう支援している。			



自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までに終了後も支援を必要とされるケースがなかったが、今後その様な場合は、適切、丁寧に対応していく方針である。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の状態や談笑の中での一言を逃さず拾い、方針の中に組み込み、また、その時々で柔軟に対応できるように努めている。	利用者と職員が寄り添いながら一緒に楽しむケアの中で、思いや意向の把握に努めている。利用者の意思を尊重して対応し、団体行動の苦手な利用者等には、本人の意思に沿った個別活動を支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や各担当者の話を聞き、客観的な生活歴等を大まかに把握し、ご本人の話をじっくり聞き、主観的な生活歴等をしっかり把握し、現在のご本人の意向を大事に方針を立てている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の表情や口調、態度等をしっかり見極め、ホームでの生活の流れに苦痛を感じる事のないように努力している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意思を第一に、ご家族や主治医等、ご本人の周囲にいる方々と共にプランを作成する事で、現状に即した個性のあるプランになるよう努力している。	本人や家族と話し合い、職員、関係者の意見やアイデアを反映した利用者本位の介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、見直しは状況に応じて随時に行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の記録を記入し、毎月モニタリングをする事で、変化に気づき易く、プラン作成にも活かす事が出来ている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなサービスが必要になった場合、各方面の担当者と共に熟考し、実践できるよう取り組む方針である。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の状態を的確に把握する事で、残存機能を十分に発揮し、地域の一員として豊かに暮らせるよう努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、又はご家族の希望するかかりつけ医での受診を推奨し、積極的に連絡を取りながら都度対応している。	本人や家族が希望する医療機関で受診できるよう支援している。また、母体医療機関の医師や看護師間との情報共有に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々看護師や医師への密な報告は行っており、必要時、迅速に対応できるよう努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入・退院の際に、できる限りの情報を提供し合い、入院中には、必要に応じて連絡を取り、ご本人が快適に過ごせるよう、常に情報を提供できる準備をしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	原則として看取りケアをしない方針ではあるが、ご本人やご家族の意向を重視し、実践している。状態の変化等で、こまめに連絡を取りながら、都度方針を更新し、柔軟な対応ができるよう努めている。	利用者、家族の意向を重視し、重度化・終末期の対応方針を定め、説明を行っている。看取りの実績もあり、医師、家族、職員、関係者が方針を共有し、連携して支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは設置しているが、定期的な訓練は実施できていない。今後勉強秋時に定期的実施していく予定。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施しているが、火災が主である為、今後地震の場合等、地域の消防団の方への依頼も行いながら、色々な場面での訓練を実施していきたい。	ホームの廊下の壁に、読みやすくわかりやすい手順を箇条書きにした緊急マニュアルを掲示している。消防署の立ち合いでの訓練や定期的な避難訓練を行っているが、地域との協力体制が確立されていない。	今後、災害の種類や時間帯を想定した避難経路の確認や誘導を適切に行い、避難訓練時に地域住民に参加を呼びかけるなど、地域との協力体制を築くことに期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩として尊敬の念を忘れずに、言葉遣いや対応を心掛けている。居室へ入・退室の際はノックや断りの言葉を述べ、ドアが本人の意思に反し開けっ放しにならないよう配慮している。		利用者一人ひとりの人格を尊重した精神面への配慮や個人情報保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人の意思を尊重するように心掛けている。決断が困難な場合は、アドバイスを入れながら、自己決定を促せるように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、利用者の意見を尊重し、対応できるように心掛けている。団体での活動が苦手な方には、ご本人の意思に沿った個人活動を支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に馴染みの美容室より出張カットを実施している。自己にて身支度のできる方は見守りのみ行い、介助が必要な方へもご本人の意思や好みに配慮し、選択肢の提示等の支援も行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員と共に同じテーブルを囲み、和やかな雰囲気の中で摂る事が出来ている。食後はテーブルにて食器拭きや台拭き等の作業を可能な限りしてもらっている。		旬の新鮮な食材を使った利用者の嗜好に配慮した献立を作っている。職員は、同じテーブルを囲んで食事介助をしたり、利用者と一緒に会話をしながら食事をしている。力量に応じて後片付け等を手伝う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の変化や食べられる量に応じてご飯やおかずの量を調整している。水分を多く摂れるように、お茶だけでなく、牛乳、ジュース類も提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	居室にうがい用コップを置き、毎食後うがいや歯磨きを行っている。夕食後は義歯洗浄剤を使用し、うがいが出来ない方は、口腔ケアティッシュ等を使用し、口腔内が清潔に保てるように支援している。			

宮崎県都城市 グループホーム小松原(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間毎の声掛けと共に、ご本人の様子を見守りながら、兆候が見られればトイレ誘導を行っている。布パンツ使用度が高く、夜間帯おむつやリハビリパンツを使用している、できる限りトイレでの排泄ができるよう支援している。		排せつチェック表を活用して利用者一人ひとりの排せつパターンを把握し、できるだけトイレで排せつできるよう自立に向けて支援している。おむつの使用を減らす取組もなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に色々な野菜を取り入れたり、レク時体操を促す等、毎日適宜な運動で便秘予防に努めている。排便状態をここにチェック、記録をし、必要に応じ主治医へ相談している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各居室に浴室があり、お湯加減や湯船にかかる時間等、体調や好みに応じ調節している。曜日、時間帯は決まっていますが、個人風呂である事から、状況によっては希望時に入浴してもらう事も可能である。居室での脱衣、入浴により、プライバシーは概ね保たれている。		利用者のこれまでの生活習慣や好みに合わせた個別の入浴を支援している。入浴を拒む利用者には、時間をずらしたり、タイミングに合わせて声掛けをするなどして支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の使い慣れた寝具等をご家族に持参して頂き、定期的に洗濯を行い、安心して清潔な環境で休めるように支援している。空調管理もこまめに行い、ゆっくり休んで頂けるように配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋はケース記録に綴じ、変更があれば必ず申し送りに記入し、全職員が確認、把握できるようにしている。症状に異変が見られた時点で、主治医に報告、相談、指示を仰いでいる。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホールでDVDを視聴されたり、懐かしの童謡をカラオケで歌ったり、ご利用者間でも会話が增え、楽しみにされている。職員と談笑しながら、調理レクや洗濯物、食器拭き等への参加もあり、月に1度のウクレレ演奏会を楽しまれている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候や体調を考慮して、屋外への散歩や苑庭でのレクを実施し、桜の季節には桜並木へのドライブにも出掛けている。		外庭で散歩やレクリエーション活動、軽喫茶を行ったり、庭の花々の観賞、時期によっては、庭の入り口に植えてあるレモンを持ち帰るなど、季節感を味わってもらえるよう工夫している。家族にも協力してもらい、外出等を支援している。	



宮崎県都城市 グループホーム小松原(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の大切さは理解しているが、居室が無になる事が多い事や施錠できない事から、日常的な金銭の所持は、トラブルを未然に防ぐという観点から実施していない。預り金の管理方法はご家族の同意を得た上で事業所が行っており、使用の際には相談、報告をしている。また、必要に応じてご本人への報告も行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはご本人の意向に沿えるよう、手紙の準備をしたり、電話を取り次いだりしている。また、ご本人がうまく返信が出来ない場合は、相手との関係性に配慮した上で、職員よりご本人の尊厳が保たれる、適度な近況報告と共に写真を郵送している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎の壁画や花等を飾り、ホールや廊下も明るい。共用空間の狭さが良い効果を発揮し、常に人の気配があり、食事の準備をし始めるとおいしそう匂いが玄関まで漂う等、家庭的な雰囲気になっている。また、廊下のソファに座るのを好む方もおり、目前を行き来する職員やご利用者とのコミュニケーションを楽しんでいる。	共用空間に温度計を設置して調整を行っている。季節に応じた飾りつけや花を生け、居心地よく過ごせるように工夫している。廊下にはソファを置き、利用者が落ち着いて過ごせるよう配置している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは一人になる事はできず、常に他者と共にあるが、廊下へソファを設置し、いつでも利用できるようにしてある。落ち着かず、一人の時間を必要としている場合は、表情や動作を観察し、早目に居室へ誘導できるようこまめに声掛けをしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物を置いたり、花や壁画等で居室内がご本人の意に反して、殺風景にならないように工夫している。また、希望により、仏壇や衣装ケース等も危険予測をした上で、馴染みの物を持参してもらう事もある。	その人らしい居室になるよう工夫し、観葉植物を置いたり、使い慣れた家具、写真、ぬいぐるみなどを置き、ゆったりと安全に安心して過ごせる環境を整えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所、トイレ等が居室内に個別に設置しており、場所が理解し易く、自身で行く事が容易にできる。また、排泄等に関する事で人に知られたくない状況の場合も、職員とご本人のみでスムーズに解決する事ができる。			